６新教総　号　外
令和６年６月１７日

町内小中学校長　様

新地町教育委員会教育長　佐々木 孝司

野生生物への注意喚起について（通知）

標記の件でありますが、これまでも、児童生徒がニホンザルやイノシシ等と遭遇した際の対処方法について、具体的に指導いただいて参りました。先週になり、２つの野生生物について目撃・発見情報があったことから、以下に記しますので教職員並びに児童生徒に指導願います。

１　ツキノワグマ

全国でツキノワグマの人身被害が多数発生しています。町内で人身被害は発生していませんが、近隣市町村においてはツキノワグマと思われる獣の目撃情報が数件寄せられています。

POLICEメールふくしま等によれば、相馬市において６月１４日（金）午後３時３０分頃、相馬市中野字清水地内の雑木林において、クマ１頭（体長不明）を目撃したとの情報が寄せられたとのこと。近隣の宮城県市町においても、６月以降も目撃例やフンや食痕、足跡の情報が届けられているようです。現在のところ、人的、物的被害等はありませんが、本町においても、注意喚起が必要です。特に浜通りに住む私たちにとってクマについての情報・知識は多くはありません。

つきましては、貴下教職員並びに児童生徒に福島県自然保護課発出の「ツキノワグマ出没注意報」「クマに注意！」により、具体的に指導、注意喚起をお願いします。

なお、今後、児童生徒からの野生生物の情報については、精査し、関係機関と情報共有等をする必要があることを申し添えます。クマなどの野生動物を見かけた際は、危険ですので不用意に近づいたりせず、相馬警察署、町役場、学校等へ速やかに連絡をすることもあわせてご指導ください。

※　これまでの目撃例はイノシシとの見間違いであることが多かったですが、相馬市において、令和元年度に東京農業大学が行った野生動物調査でツキノワグマ１頭が山上地内に設置したカメラに撮影され、その生息が確認されています。

２　カツオノエボシ

これまで東北地方沿岸部には、あまり縁が無かった猛毒のクラゲ「カツオノエボシ」ですが、６月１３日、仙台市の海岸におよそ２００匹が打ち上げられたとのことです。この報道を受け、６月１６日の段階で、新地町の釣師浜海水浴場、相馬市の原釜尾浜海水浴場で現状を確認しましたが、現物を視認することはできませんでした。

「カツオノエボシ」は触手に猛毒を持っています。「カツオノエボシ」は、砂浜に打ち上げられて死んでいても猛毒は消えず、触ってしまうと激しい痛みやかぶれが起きます。人によっては、アナフィラキシーを起こす場合もあるので、かなり注意が必要であるとされています。

一昨年に鎌倉市の３つの海水浴場では、一日で68件の被害が寄せられ、救急車で搬送される人も出る等、近年になり本州でも被害報告が多くなってきています。

「カツオノエボシ」は、日本近海に広く生息していて、名前のとおりカツオが太平洋沿岸にやってくる夏場（５月～９月頃）に黒潮に乗って北上してきます。ただし、これまでの分布図を見る限りにおいては、九州以南の太平洋沿岸では広く生息するものの、東北地方では台風が過ぎた後に海岸に打ち寄せられる程度でした。黒潮大蛇行が始まって、まもなく７年目となり、過去最長期間になっています。海洋生態系や気候に変化があらわれ、漁業や気候にも影響が出ています。「カツオノエボシ」の生態については不明であることが多く、東北地方での打ち上げ報告の増加と黒潮との具体的な関連性はわかっていませんが今後、注意が必要です。

つきましては、児童生徒にとって、待ちに待った夏休みを控え、海水浴等で海に出かけた際のの指導事項に加えていただき、注意喚起をお願いいたします。【別紙参照】

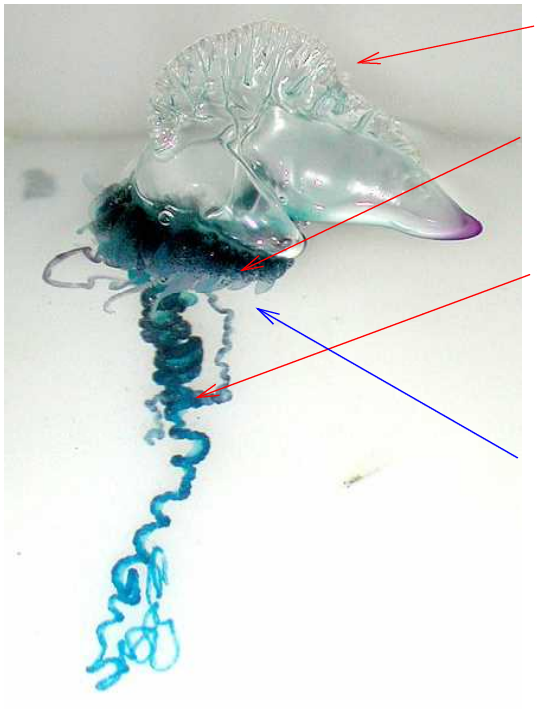
【事務取扱　新地町教育委員会教育総務課　０２４４－６２－４４７７】

**カツオノエボシについて**　　【別紙】

　１０センチ前後の浮袋を持つことが特徴的なクラゲです。
全体的に半透明で、色のついた部分は薄い青色～濃い青色をしています。青系統は海の色に溶け込んでしまうため、遠くからだと見つけるのは非常に困難です。
　また、カツオノエボシは時折浜辺に漂着することがあります。その漂着したカツオノエボシを、ペットボトルや袋などの「浜辺に落ちているゴミ」と勘違いしてしまい踏んだり触ったりしてしまうケースもあり、非常に危険です。
触手は平均で１０メートル、長いもので３０～５０メートルまで成長することがあるようです。
初夏のこの時期（5月上旬～）、初ガツオの到来とほぼ同じタイミングで見られるようになるため「カツオの烏帽子」と名づけられました。
　カツオノエボシ自体の遊泳能力はほとんどなく、浮袋を使って海面に浮いており、風を受けて移動します。色も綺麗で面白い形をしているので、ついつい触ってみたくなります。
　触ると、刺されると電撃を受けたような激痛（電気クラゲという異名があります。）が走り、炎症を起こして患部が腫れあがり、痛みは長時間続きます。症状は様々で、くしゃみ、せきなどから心拍数の増加、脱力感、呼吸困難まで見られます。場合によってはアナフィラキシーショックを起こし、死に至ります。
　砂浜に打ち上げられて死んでいるように見えるものも、「刺胞（とても小さな毒針）※」が破壊されない限り刺されてしまいます。
※「刺胞」は物理的な刺激により発射するため、生死や意思に関係なく刺されます。
目視で刺胞が壊れているかの判断はできませんので、触ってはいけません。特に危険部位である触手はとても長い（10m～30m）ため、近づかないようにしなければなりません。
　青い烏帽子のような袋状を見つけて、触手を踏みつけてしまう場合もあるとのこと。

**万が一、刺された場合の対処法（神奈川県ホームページ引用）**

　皮膚に刺さった触手をそっとはがし（素手で触手を触らないでください）、速やかに医療機関で医師の診察を受けてください。
※　消毒に真水や酢を用いると逆効果となるため、使用しないでください。



気胞体（Pneumatophore，気体が入った浮きとしてコロニー（集団）を浮かせ風を受けて移動する）

栄養個虫（Gastrozooid，食物消化専門のポリプ（固着相のクラゲ）。餌の細胞外消化も行う）

触手（Tentacular palpon、触手の生えたポリプ。本種に特有のもので触手によって獲物を捕獲し、また刺胞もつくる）

生殖樹状体（Gonodendron，生殖機能の複合体で、成熟するとコロニーから分離される。栄養個虫と以下のような個虫が集まっている）コロニーは雌雄異体で性別が決まっている。なお、この写真からは判別できない。

**本資料の内容は、Wikipediaより引用**
**画像の出典は：Wikipedia　米国海洋大気庁**
**：Islands in the Sea 2002、NOAA/OER。**

**【カツオノエボシ：1個体に見えるのは、実は多くのポリプが集まって形成された群体】**